

## 松ヶ崎学区の安全レベル？

松ヶ崎分団長 芝山宗昭

学区民の皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。さて、分団長として、南は岡崎学区、北は広河原学区の26人の分団長とお付き合いし、学区毎の災害の多少の振れ幅に驚かされて来ました。年の改まる機会に、松ヶ崎の安全の現状と将来について私見を述べさせていただきます。

### ◎ 松ヶ崎の当面の安全（災害の少なさ）

【失火火災】最近の20年間、左京区の火災は年間20～25件で推移しています。左京区には27学区ありますので、平均的には1.1年から1.4年毎に火災が発生すると言えますが、松ヶ崎は3～5年毎に1件の火災発生に留まっています。商業・娯楽施設の少なさ、住宅敷地余裕などが功を奏しているのでしょう。【水害/土砂災害】一昨年の洪水特別警報時、北部の数字学区では通行止め、東山学区では自動車が流されるほどの出水。昨年の土砂災害避難勧告時、周辺20余学区で被害が出ましたが、松ヶ崎はいずれも無傷でした。小ぶりの山を北に抱き、緩やかな傾斜地を選んだ先祖の英断、その後に住み着いた新住民の判断が幸いしているようです。縦横に張り巡らされた農業用の水路の存在及び取水門のきめ細かい開閉操作（農耕者から選ばれた水役当番による）が功を奏していると考えられます。

### ◎ 松ヶ崎の将来の安全

【失火火災】高齢化による失火微増は避けられないと思われませんが、民生委員や社協役員の見守りと近場の消防車配置により、まずまず安全範囲と予測できます。【水害】農耕者・水役の高齢化で水路・水門管理が不十分になり、小規模な逸水や道路冠水の懸念されます。町内会単位の泥上げや落ち葉掻き出し作業が必要になります。【土砂災害】北に位置する小ぶりの山は、集積水量が少ないこと、崩れにくい堆積岩からなるため、大規模な土砂災害を生じませんでした。過去50年伐採されずに伸び、老齢化した木々が若木の成長を阻害しているため、山斜面表層土は減じ、保水力も減じています。このまま放置すれば、中規模の土砂崩れや体積した枯れ木及び枯葉の突発的な流れ出しを招くものと考えています。【地震災害】花折断層起因のマグニチュード7.5規模の地震発生が懸念されています。同規模の「阪神淡路大地震」の災害を松ヶ崎「住民8300人、家屋4200軒」に当てはめると、17人が死亡、120人が負傷、600軒が全半壊、1軒弱に火災発生、16軒延焼が予想されます。勤務中消防署員の学区割り当ては1.7人、消防団員の学区割り当ては8人（定数の中の1/3が即応可能）にしか過ぎません。

地震災害も含めると、消防署員のプロや消防団員のセミプロに任せたままで「松ヶ崎学区民は安全」とは言えません。家具の転倒防止策、火元確認、当面の寝泊りや非常食備蓄など、学区民個々の備えが必要になっています。松ヶ崎学区では、町内会など隣人連携や自主防災会活動参加が有用になります。消防団員を経験してのパワーアップもお勧めですよ！

## 消防分団活動に一層のご支援ご協力を

松ヶ崎分団後援会長 三宅秀典

謹んで、新年のご祝詞を申し上げます。皆様には、ご家族お揃いで輝かしい信念をお迎えになられたことと、心からお喜び申し上げます。地球が温暖化の傾向にあるためでしょうか、昨年も各地で集中的な豪雨となり、大きな災害が発生しております。当学区内でも、一時避難の警報が出されましたが、幸いにも大きな被害はなく、又、昨年は火災の発生もなく過ごすことができました。昨年より、左京消防団総合査閲での消防訓練において個人表彰制度が定められ、松ヶ崎分団員の一人が一番員役で見事受賞しました。日頃から火災現場を想定した訓練が積み重ねられ、これが確実な動作習得に繋がり、個人表彰受賞に結びついたものと得心しております。今後とも、団員一同、気を引締め、地域の安全と安心のために頑張ってお参りしますので、変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 松ヶ崎消防団員の創意工夫による防災自主訓練活動

京都市条例に定められた左京区消防団の組織下にて様々な活動をする中、松ヶ崎学区固有の防災観点に立ち、安全な活動を自主的に実施しています。（活動全般は、松ヶ崎自治連合会監修のホームページに掲載しています）

### 送り火「妙法」警備における消火活動の効率的な分団活動

日時：2015年08月16日17時30分～21時00分  
場所：西山「妙」及び東山「法」火床斜面全域

送り火行事における飛び火警戒や消火確認活動は、分団にとって山火事対応力増強に有用な訓練と位置付けています。消火活動は、送り火「妙法」主監の立正会及びその会員の業務であり、広域行事として左京区消防署及び近隣の消防出張所のご支援を頂いておりますが、近年、会員の火への不慣れ、会員の後続のお題目・さし踊り行事への迅速な移動が必要であることなど、消防署・所員のご負担が増えています。

妙については、火床103基がくずし字の輪取に沿って配置され（右上の左図）、法については火床63基と少ない反面、急勾配の斜面に点在（右上の右図）しています。消防分団は、会員と消防署員による消火活動を補完する取り組みとして、署及び出張所が準備した消火ホースの引き回しやジェットシューター（背負い水袋）により点在する火床に縦横無尽に接近し、機動力ある鎮火・延焼防止に寄与しています。また、水力による消火に依存せず、火掻き棒（燃焼物の破壊による鎮火方法）を併用し、効果的な消火措置を講じています。急勾配の法の消火活動ではまだ人員不足の課題はありますが、妙においては昨年の5割減という時短となりました。

加えて、斜面の広域で周辺樹木への延焼を監視しながら、飛び火警戒もしなければなりません。本年度より火床の消火活動も分団員が率先して実施するため、左京区消防団の本団、葵、下鴨の各団からも加勢を頂き、松ヶ崎分団員と総員28名の編成により組織力のある効率的な取り組みを実施しました。火災対応の即戦力を培う機会でもあり、団員個々において実際の災害時で起こる水源の確保や、最小限の水量で最大限の効果を発揮する技量習得にもなります。夏場の気温の高い中、夜間の急勾配斜面での活動では、ヘルメット、長袖長ズボン、手袋の正規活動着衣が義務付けられ、ヘッドライト、ジェットシューターが必需装備となります。強靱な体力も必要になります。事故なく安全に取り組むため、綿密な活動計画を立案し、年度評価と課題を洗い出しながら、分団組織力を高める訓練を今後も続けて参ります。

